

著者IDの動向

概要説明

第7回SPARC JAPANセミナー2010
2011年1月14日(金)
林 和弘
(日本化学会、SPARC JAPAN運営委員、NISTEP客員研究官)

 **SPARC Japan** 国際学術情報流通基盤整備事業
SPARC - Scholarly Publishing and Academic Resources Coalition

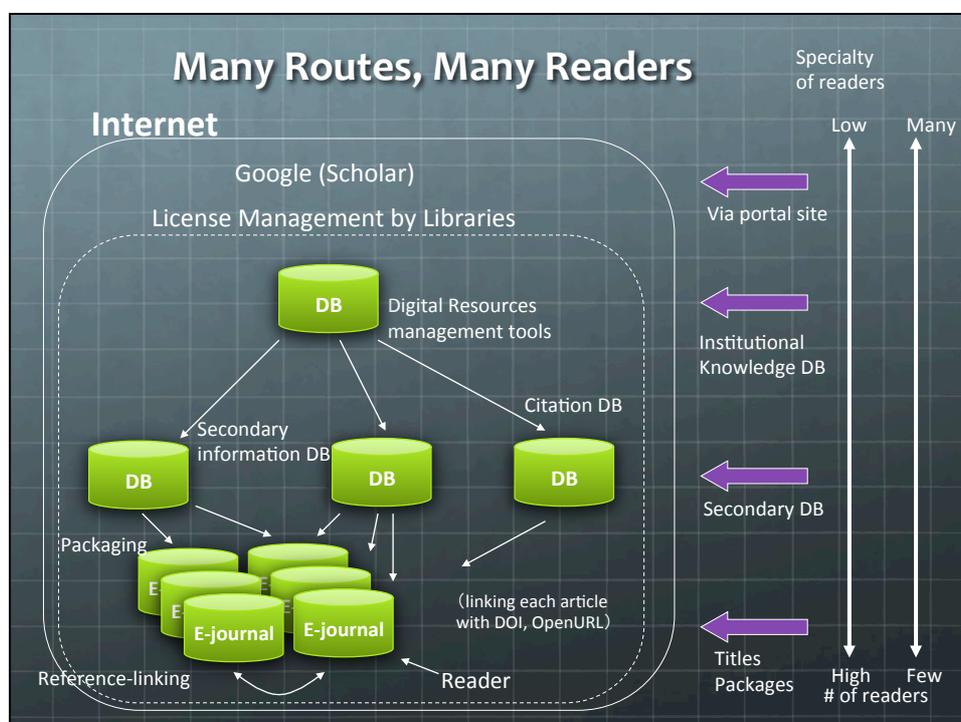
著者のID=人のID

- 古くからあるIDと連携の課題
- 名簿一名前、学生一学籍番号、、、
- 学会の会員名簿一会員番号 会員データベース
- インターネット上のID
 - Email(ショッピングサイト)
 - ハンドルネーム(BBS)
 - Twitter等アカウント
- 閉じた世界で機能しているものはすでにたくさんあるが、連携はまだ薄い
- (一部にOpen IDの動き)

 **SPARC Japan** 国際学術情報流通基盤整備事業
SPARC - Scholarly Publishing and Academic Resources Coalition

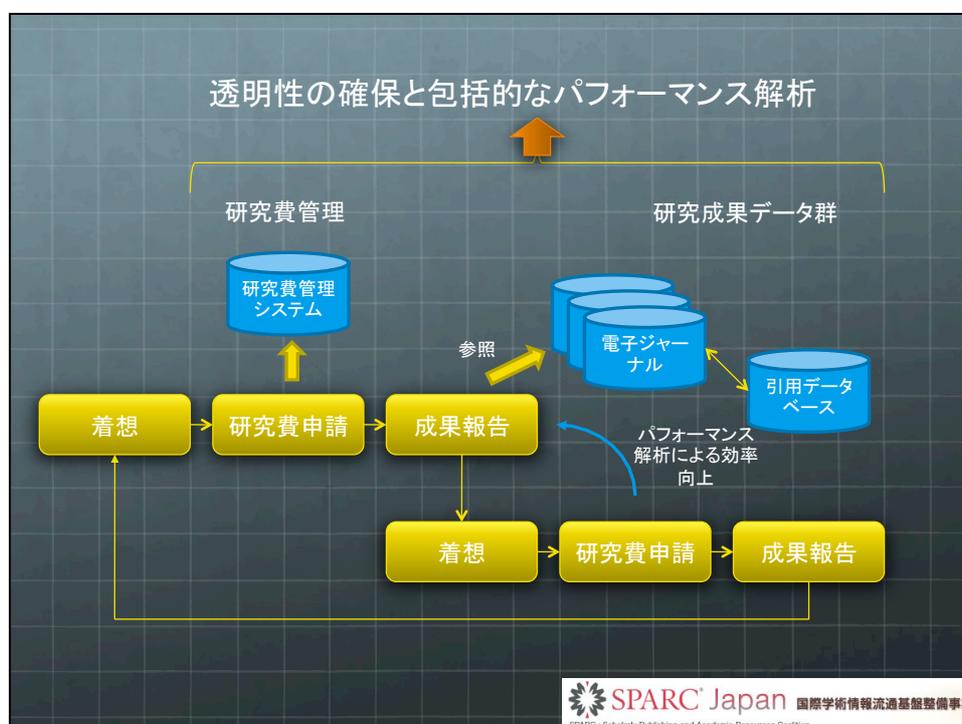
電子ジャーナル化と 識別子 (Identifier)

- コンピュータリソースやネットワークインフラの飛躍的な発展 (15年位前は、CPU(数十MHz)、メモリ(数M)、HDD(数百M)、ネットは電話回線(ピーガー))
- 情報伝達スピードが飛躍的に高まり、かつ多くのかつ、世界中の情報とに簡便に連携することが可能に
- 共有のしやすさ、透明性の向上
- 連携のためには識別しなければならない
- システム的にはリレーショナルDBにおけるキー
- 学術情報流通の世界は論文から (CrossRef)



図書館情報学的苦悩と 研究評価の時代

- 🌐 誰がどの論文を書いたか、どの機関がどれだけの論文を書いたか
 - 🌐 古くからある課題
 - 🌐 名寄せ問題(バリエーション、間違い、言語)
 - 🌐 経時変化問題(人の改姓、機関の改名/統廃合)
 - 🌐 力技と主観の駆使
 - 🌐 WOSとSCOPUS
- 🌐 主に引用データに基づく研究パフォーマンス評価
 - 🌐 大学の評価、研究者の評価のニーズとマッチ
 - 🌐 より客観的で精確なデータの必要性
 - 🌐 研究費の適正配分を目指して



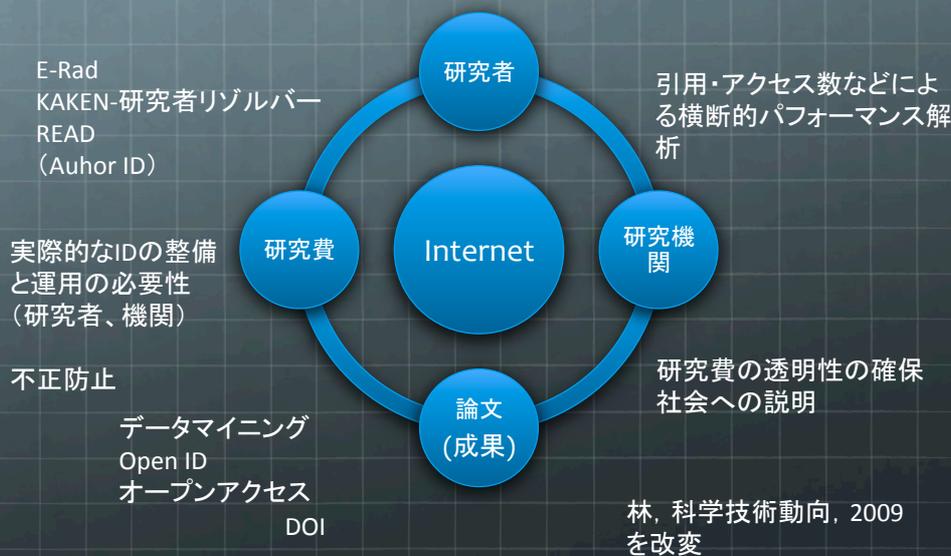
研究費の適正配分と e-Rad

- 🌐 府省共通研究管理システム(E-Rad)
- 🌐 「研究資金制度間の情報共有、研究者情報の管理などを行うことにより、不合理な重複の排除や過度の集中を避けるとともに、業務の効率化を図るため」
- 🌐 KAKEN-研究者リソルバー(NII)
- 🌐 READ(JST)
- 🌐 経産省、厚労省、、、

<http://www.e-rad.go.jp/system/function/index.html>



どの研究機関の誰がどの研究費を使ってどんな研究をし、
その成果とインパクトはどうだったかがわかる時代
(包括的ネットワーク)



ORCID

世界レベルの著者IDの連携

- 理想的
 - 超党派連合(大学、図書館、学会、出版社、ベンダー)
 - 世界の研究者の情報管理が可能に
 - グローバルな研究者、研究機関評価へ
- 現実的には
 - なぜ、トムソン・ロイターとエルゼビアが手を組んだのか
CrossRefではなぜやり切れなかったか
 - システムコントロールは？運用体制は？
 - 日本としてはどう対応すべきか？
 - 大学、研究機関、図書館、学会、企業としてはどう対応すべきか？

- 理工医学系電子ジャーナルの動向—研究情報収集環境と事業の変革、科学技術動向、2007年2月号、No.71
http://www.nistep.go.jp/achiev/ftx/jpn/stfc/stt071j/0702_03_featurearticles/0702fa02/200702_fa02.html
- 論文誌の電子ジャーナルをめぐる最近の動き、科学技術動向、2009年7月号、No.100
http://www.nistep.go.jp/achiev/ftx/jpn/stfc/stt100j/0907_03_featurearticles/0907fa01/200907_fa01.html